

第2回 村上市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 開催日時：平成24年8月23日（木） 午前10時00分から11時00分

2. 開催場所：村上市ふれあいセンター 2階研修会議室

3. 出席者：（※敬称略）

【出席委員】大滝会長、田巻(耕)委員、小田(修)委員、川村委員（田邊調査係長代理出席）、嶋倉委員、後藤委員、長谷部委員、板垣(藤)委員、松田委員、菅井委員、佐藤(憲)委員、本間委員、小田(美)委員、川崎委員、幸委員（長谷川交通企画係長代理出席）、風間委員、綱島委員、小林委員、佐野委員、山田委員、川内委員、板垣(圭)委員

【欠席委員】西田委員、船山委員、大嶋委員、矢部委員、田巻(均)委員、佐藤(久)委員、吉田委員

【委員以外】株式会社瀬波タクシー、坂町タクシー株式会社、藤観光タクシー株式会社、株式会社はまなす観光タクシー、新潟交通観光バス株式会社村上営業所（オブザーバー）

【事務局】佐藤、木村、高橋、矢部、本間（村上市）

4. 傍聴者：1人

5. 会議次第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

【協議事項】

(1) 平成24年10月以降の公共交通実証運行計画について（案）（資料1）

(2) 乗合タクシー料金の見直しについて（案）（資料2）

4. その他

5. 閉 会

6. 会議資料

【配付資料】

◇議事次第 ◇出席者名簿 ◇配席図

【議事資料】

資料1. 平成24年10月以降の公共交通実証運行計画について（案）

資料1-1. 見直しを行う実証運行詳細

資料2. 乗合タクシー料金の見直し（案）

資料2-1. 乗合タクシー料金試算

参考資料 村上市公共交通実証運行利用状況等

7. 会議経過

○事務局：定刻前でございますが、皆様お揃いですので、平成24年度第2回村上市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。それでは、議事次第に沿って進めさせていただきます。最初に本協議会の会長が、ご挨拶を申し上げます。

○会長：みなさんおはようございます。非常に厳しい残暑が続いておりますが、皆様におかれましては、ご自愛のほど、心からお祈りを申し上げます。本日は第2回村上市地域公共交通活性化協議会にご出席をいただきまして、心より感謝を申し上げます。

本日の協議会では前回6月に開催されました協議会での協議事項であった、10月以降の運行に新たに追加となったことや、前回未定となっております山北地区での実証運行計画について、そして前回保留となっております乗合タクシー料金の見直しについて再度ご協議をお願いするものでございます。

委員の皆様には、様々な観点からご意見やご提案をいただきますようお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

○事務局：次第3の議事に入る前に、本日出席いただいた委員数が、過半数を超えておりますので、本協議会が成立していることをご報告いたします。

それでは、議事に入りますが、協議会規約に基づき、これより会長による議事の進行をお願いいたします。

○会長：私が暫時の間、議長を務めさせていただきますので、ご協力の方お願いいたします。

最初に協議事項（1）平成24年10月以降の公共交通実証運行計画について事務局より説明をお願いします。

○事務局：資料1、資料1-1に基づき説明

○会長：ただいまの協議事項（1）について事務局から説明がありました。皆さんから、ご意見あるいは、ご質疑等をいただきたいと思います。

しばらくしてご意見、ご質疑がないようでございますが、この案で実証運行をしてよろしゅうございますか。

－（「はい」という声）－

○会長：それでは異議がないようでございますので、協議事項（1）については提案のとおり承認をさせていただきますことといたします。

つづきまして、協議事項（2）のりあいタクシー料金の見直し（案）について、事務局より説明をお願いします。

○事務局：資料2、資料2-1に基づき説明

○会長：ただいま協議事項（2）のりあいタクシー料金見直し（案）について説明がありました。第1案、第2案を説明したわけですが、事務局としては第1案を採用していきたいということです。これらについて皆さんのご意見、ご質疑をいただきたいと思います。

○委員：デマンドの説明の中で遠距離の方は料金が高いから利用しづらいという説明でしたが、その

方々は今どうやって通院をされているのでしょうか？

○事務局：朝日地区であるとバス路線がございます。バス路線と比較をしながら乗車をしている状況でするので、乗合タクシーに乗っていない方々については、バスを利用しているのではないかと考えております。また、親戚の方々とかが病院まで送っているというケースもあると聞いております。

○委員：バス路線と並行してタクシーを運行しているところが、かなりあるということでしょうか。

○事務局：地域によってはそういう路線がございます。

○委員：そうしますと、このタクシーを頑張れば頑張るほど、バスに乗る人が少なくなって、その辺の実証実験だったということでしょうか。

○事務局：利用者がどういった形でどちらが利用しやすいか、という目線を見ていこうかというふうなこともございます。最終的にはいろんな観点からバス等も見直しながら動こうと考えております。

○委員：その辺の説明は、利用者の方々へ提示した上でこういうことをやっているということなのでしょう。タクシーの方を一生懸命使われると、バスはなくなっていく可能性もありますよと、その辺も承知の上で住民の方々には、どちらを選ぶかという実証実験をやられている、その辺の説明はされているのでしょうか。

○事務局：朝日地区の蒲萄・高根地区だけになりますが、あとは交通空白区域での形ということでの説明をしておりました。細かくその部分の変更をする部分で将来的になくなるのかそういった話についてはまだしておりません。なくなる可能性もあるし、なくなる可能性もありますので、そのための実証だと考えております。これがもしそういった状況下になりましたら、説明をしながら進めていこうと思っております。

○委員：実証実験の結果によっては、そういう影響を受けるということ、地元の方に最初から分かっていた上でやっていただかないといけないと思います。

○会長：他にございますか。

○委員：単刀直入なのですが、路線バスなどと比較すると乗合タクシーの料金は3倍の格差がある、これがなぜ生まれるかという、結局、補助の関係で格差が出てくるのではないですか。タクシーの方にも補助金を持って行けば同じくらいの料金に設定できるのではないですか。どこまで補助をできるのか、比較、比較と言っているが、交通弱者救済の動きでありますので、思い切ってバスとの格差を縮めて同じようにすることによって、双方の利用、活用が出てくると思うのですが、ただ問題は予算です。市の方に努力していただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

○事務局：一定の割合の差別化的部分は実証の中では設けておりますので、どういった形で乗合いの実績が出てくるのか、その辺を見定めながら、なるべく努力させていただきますが、一概に言い切れない部分もありますので、検討しながら進めていきたいと思っております。

○委員：ありがとうございます。格差が生じないように、多くの利用者が利用できるように我々も考えて行かなければならないので、努力をよろしくお願いします。

○会長：ありがとうございます。要するに利用者が利用しやすい公共交通体系を確立していくために実証実験をやっているわけで、それに向かって市も最大限努力をして行くということでもありますので、その点については理解をいただきたいと思っております。

他にございますか。

○委員：もう一つの視点といたしまして、将来的な選択肢をどのように残していくかという視点も大

事になっていくのではないかと思います。定期バスにつきましては、かなり今もギリギリな線で運営を強いられております。その中でデマンドタクシーと同じ運賃ということになりますと、バスの方はなくなってもいいのか、将来的にバスを復活させようとした時に、周辺のバス会社はその体力もなくなって、なかなか復活させられないということもございますので、デマンドタクシーの運賃だけの問題だけではなく、例えば今後の協議になってこようかと思いますが、バスの運賃についても、村上市街地から例えば北中までの路線で、900円に達しようかというバス運賃になります。これは昔からの営業路線をベースとした運賃の設定であります。今はいわゆる福祉の視点でのバス運賃の設定も協議会の中では考えていく必要があります。そういった意味も含めて、利用される方の今後の選択肢も含め、今後のバス運賃についてもこの場で協議をお願いしたいということでございまして、まずその一步が今回のデマンドタクシーの運賃につながると思いますので、慎重なご審議をお願いします。

○会長：一つには、今の路線バスをこのまま空バスが走っている状態を私ども村上市としては、とても容認するわけにはいかないということが大きな要因になるわけございまして、莫大な補助金を出して運営しているので、その解決も含め地域の公共交通はいかにあるべきか考えていく必要があるということで、この公共交通体系をスタートしたような意味もあります。それらを含め皆さんと共に協議をし、より良い公共交通体系を路線バス含め目指していきたいと考えております。

○委員：今の市長の話は、よろしくお願ひするところでございます。ただ、私の話しは新潟交通さんが駄目とかじゃなくて、要は重要な所を新潟交通さんをお願いして枝葉の分かれるところは、徹底して弱者を救っていく、その体制を私は考えておまして。その関係で枝葉の方で利用される住民の方があれば、金額を安めにしながら同じような対応を取りながら行くことで、サービスイコール住民の幸せになると思ひ話しをさせてもらいました。新潟交通さんを否定するわけではありません。その代わり空バスの走っている所をどうするかと私も考えておりますのでご理解をお願いします。

○会長：ごもっともな意見で、これから高齢化を迎えまして、あるいは地域が色んな面で苦勞している現状ですので、これらを買ひ物、あるいは医療の足を確保するためには新潟交通さん、あるいはタクシー事業者、それらを含めまして整合性を図りながら、より良い地域の足を確保していかなければならないということで、その点については、これから私どもは一生懸命に努力をさせていただきますと考えております。

○副会長：今はよろしいと思ひますが、長期的に言えば、参考資料の収支率を見るとかなり低くなっております。他の自治体と比べると地形など色々な条件もあると思ひますが、その理由の一つとして推測ですが、1台あたりの利用者数を見ると1を超えており、他の自治体と比べても良いのですが、収支率が悪いというのは、運行しなくても経費がかかるという仕組みも一つ問題があると思ひます。ここで1台あたりの利用者数は、運行している台数でこれ位あれば、もう少し収支率は高いはずで、運行しない日でもかなり経費がかかっているということで、一人あたりで見ればタクシーの方が安い。タクシーより高いものが継続できると思わないので、長距離が高いのであれば、長距離の人が相乗りをした時に安くなるような仕組みを入れて、長期的には深く考慮して収支率を改善していただきたいと思ひます。

○委員：先ほど市長さんが言ったように、市民のみなさんに喜ばれるような公共交通を目指してこの

協議会では検討している。それは間違いないと思いますが、今回の公共交通の実証実験、実証運行では、何を明らかにするために実証運行をしているのかははっきりしていないような気がします。一つは、これからの朝日地区の人口の推移もどうなるか、それによって利用はどうなるのか、そういう基礎になるものと、乗合バス、乗合タクシーの運行はどう関わっていくのか検討しなければならない。それから実際に今までやっていて、料金を調整したらより利用しやすくなるという仮定の元にこの第1案が出されているのではないかと思います、分かりやすく言うとそういうことになるのでしょうか。先ほどから今の乗合バスの将来のこととか、色々選択肢を考えて実証運行をと、それから説明をというような条件が出てきましたが、その辺をもう少しはっきり案の中に表すことができないか、こういうことを明らかにするために11月1日からはこういうふうにとやりますというようにできないか、事務局の方に聞きたいと思います。

○事務局：委員のおっしゃるとおりでございます。これからはなるべくそういった形のデータの的なものとか目指している部分を含めながらの資料提供させていただきます。

○事務局長：補足させていただきますが、昨年10月からの実証実験、運行につきましては、村上市地域公共交通総合連携計画に基づき行っております。地域の生活の足の確保は、どういった手法が良いのか、例えばタクシーを使ったデマンド型交通、路線バスの充実させた細かな定時定路線型バスが良いのかということを検討していきたい。そのデータ取りを行ってきたわけでございます。当然ながら1年という歳月をかけて実証運行をやっておりますが、これを1ヶ月、2ヶ月という短い単位で運行を変えていきますと、高齢者が非常にとまどうということもあるので、ある程度時間をかけて実験を行っているということでご承知おきください。

当初3年の年月で実証運行をやる予定でありましたが、国の制度等も変わりました。実証運行では、個人の満足度を保つということは非常に難しい点がございます。最大公約数の中で変えていく必要があるのかなと思っております。例えば、この地区はデマンド交通で良いけれど、この地区は集落を回る定時定路線バスが良いのではないかと。それから、当地域には羽越本線が走っておりますし、バスも走っております。どちらも非常に大切な公共交通でございます。その公共交通の狭間をぬってデマンド交通をどう走らせれば高齢者等に優しい公共交通になるか探っている状態ということなんです。最終的には車をお持ちの方であっても、例えば月に一度は低炭素社会のために公共交通へ乗っていただくとか、広い意味での地域経済も含めて公共交通の実現可能性を探っていけないかということで、ご理解していただきたいと思っております。

○会長：よろしゅうございますか。

○委員：半分くらい分かりました。小学生でも分かるような言葉で書いて提案していただけるとありがたい。以上です。

○事務局：そのようにしたいと思います。

○会長：他にございましたらお願いします。

○委員：提案されたこの料金の見直しについては賛成です。

常々思っていることではありますが、デマンド交通が始まってまだ期間が経っておりませんので、思いどおりにできないのは当然だと思います。何事もそうではありますが、今すぐ効果が表れるということにはならないと思いますが、こういう良いことは長い目で見て、そして良い方向をたどることが第一であると思います。

実証運行について私ども役員でも色々わからないこともあります。一般市民の皆さんは、それ以上にデマンド交通というのはどういうものかということについて、不理解なところがたくさんあると思います。そこで、こういう立派な制度をもっと皆さんにPRしてもらいたいと思います。市報、その他にも取り組んでいると思いますけれども、家まで迎えに来るわけです。バス停まで来なさいとかそういうことではありません。さらには病院に横付けされる。そういったことをもっともっと市民の皆さんに周知、徹底する必要があると思います。今、申しましたように一朝一夕にこのことは解決できませんので大変だろうと思いますが、市報、その他を活用してもっと市民の皆さんがわかりやすく、行動を起こすような方法をこれから大変だと思いますがよろしく願います。以上です。

○事務局長：大変ありがとうございます。そのようにPRに努めて参りたいと思います。この8月1日から緊急雇用事業で職員を1人採用させていただきましたので、その方を中心に各集落等に出向いてご意見を聞いて、どの方法が一番良いのか探っていきたいと思っております。また、先ほども話をさせていただきましたが、買い物対応だとかそれから地域経済の活性化の方までくいこんで聞いていければと思っておりますし、また、学生の通学等の利便も図っていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしく願います。

○会 長：これからの周知を徹底するよにということでもありますので、よろしく願います。他にございますか。

ないようでございますので協議第(2)のりあいタクシー料金見直し(案)については、ご承認させてもらってよろしいですか？

—はい という声—

○会 長：ありがとうございました。(2)は承認させていただきました。次に4.その他でございますが、事務局からございましたら願います。

○事務局：一点だけ願います。次回の協議会は2月頃を予定しておりますが、馬下・板貝線の延伸の計画について、その関係の協議に多少時間がかかりますので、この内容につきましては申し訳ありませんが、書面協議とさせていただければと考えております。この一点についてよろしく願います。

○会 長：よろしくお願い申し上げます。皆さんからその他ございますか。

○委 員：先般、山北地域審議会で話し合いがありまして、今日JRさんも来ていれば良かったのですが、最近JRの電車が運行見合わせているということが、非常に多過ぎるために子供たちの勉強にもマイナスになりますし、なおかつ家族の方々にも負担が大きいということで、そういう時には、市もしくはJRの方で代行を計画できないかという話しもあったのでお聞かせ願います。

○会 長：JRの特急いなほはもちろんですが、在来線についても雨風あるいは雪があったために非常に遅れや運休が多いというようなことでございまして、私どもは再三このようなことがないようにというようなことも申しあげているわけでございますけれども、JRも安全運転・安全運行を図っているということでもありますので、そうなった場合には十分に対応してもらいたいと思ますし、また場合によっては子供たちのために教育委員会と連携を取りまして、何らかの方法を取

っていく必要があると考えております。いずれにしましても遅れや運休が頻繁にならないようにということを要望しておりますので、よろしく申し上げます。

ご案内のとおり JRについては、何年か前に酒田のちょっと手前辺りで風によって人身事故が発生したため、それから非常に運行規制が厳しくなっているため、その点についてはご承知おきいただきたいと思っております。

他にございますか。

特別ないようでございますので、第2回公共交通活性化協議会の議題については終了させていただきます。大変ありがとうございました。

○事務局：それでは、最後になりましたが閉会の挨拶を佐野副会長さんからお願いします。

○副会長：実証運行が一年たち色んなことが見えてきたというのかなと思います。今年9月で終わる実証運行もありますが、単にデータの何人乗ったとか、いくらかかったとか、そういったことが当然必要かと思えますし、この地域で利用した人、もしくは利用しなかった人、それがどういった理由なのか事後評価もやっていただけると他の実証実験にも繋がると思います。

色々な問題はあるかと思いますが、持続的に住民の足を確保することが重要なことで、必ずしもサービスは皆さんが利用しやすく良いものを提供することだけが、継続的に足を確保することにはならない所もあると思いますので、実証実験の結果を基に、少し引いた目線で見えていただいて、運営を考えていただければと思います。

それでは、全ての議題が終了いたしましたので、閉会させていただきます。皆さんありがとうございました。